

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅱ-5-6  
居住環境づくり

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 経営課長 永岡伸善・施設課長 上田章 電話番号 0852-22-6645、6642

事務事業の名称	県営水道用水供給事業	
目的	(1) 対象	受水団体（松江市、安来市、出雲市、雲南市、斐川水道水道企業団、江津市、大田市）及びその市民
	(2) 意図	ライフラインである水道用水を安定供給することにより、安全で安心できる快適な居住環境を実現する。
事業概要	①水道水の安定供給 施設の老朽化対策や適切な維持管理を行うことにより、水道用水を安定して供給を行う。 ②安全で良質な水質の維持 水質の検査、監視や施設の管理を適切に行うことにより、安全で良質な水質を維持する。 ③給水量減少への対応 将来の水需要に見合った施設規模を検討し、計画的な更新を行う。	

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 給水制限日数	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	日
		取組目標値						
	式・定義 受水団体に対し給水制限した日数	実績値	0.0	0.0	0.0			%
		達成率	-	-	-	-	-	
2	指標名 水質目標値を達成しなかった日数	目標値				0.0	0.0	日
		取組目標値						
	式・定義 浄水濁度（0.1度以下）、浄水色度（2度以下）、残留塩素（0.1～0.5mg/L）	実績値						%
		達成率	-	-	-	-	-	

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	2,866,076	2,808,116
うち一般財源 (千円)	13,873	13,857

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成29年度における関係市に対して事故や故障による給水制限、水質目標値を達成しなかった日数は飯梨川、斐伊川、江の川とも0日であった。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

平成29年度においては、取水から送水に至る施設について、日常点検や定期点検を行って状況を把握するとともに、必要な修繕を適切に行ったことで事故や故障による給水制限を行うことなく、安定的に供給した。

また、取水から受水地点までの水質検査や監視、管理を適切に行うとともに、薬品注入量の細やかな調整を行うことにより、安全で良質な水道水の供給を行うことができた。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

### ①困っている「状況」

給水制限には至っていないが、飯梨川水道については送水管の腐食による漏水が発生するなど、給水支障に直結するような大きな事故が起きている。また集中豪雨や地震などの自然災害をはじめ、発生が予測できない非常事態も数年に一回発生しており、その都度対応に苦慮している。

### ②困っている状況が発生している「原因」

飯梨川水道については昭和44年の給水開始から約50年、江の川水道については昭和60年の給水開始から30年が経過し老朽化が進行していることから、施設の更新や耐震対策が必要となっている。また、地球温暖化の影響によりゲリラ豪雨などの異常気象が頻発している。

### ③原因を解消するための「課題」

老朽化した施設の更新や耐震化には多額の費用が必要であり、水道料金の上昇に直結する。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

施設の老朽化対策については、アセットマネジメント手法を用いて施設管理基本計画（保守・点検・修繕・更新）を策定し、施設の長寿命化を図りつつ必要な修繕改良を行い、安定的な給水を継続していく。

なお、これらの実施にあたっては

①受水団体の将来的な水需要に基づいた適正な施設規模の投資とし、必要に応じて施設のダウンサイジングについても検討する。

②施設の修繕、更新や維持管理においては、新技術を採用した工法や設備の導入を検討し、費用の縮減も図る。

③施設の修繕、更新は、実施時期の分散化により、単年度ベースの事業費を平準化させ、受水費の平準化を図る。

以上について受水団体への説明を十分に行い理解を得ながら進めていく。